

アクションプログラムの取組を踏まえた課題認識と今後の継続的な取組の方向性

洛西ニュータウンにおいては、平成18（2006）年に「洛西ニュータウンまちづくりビジョン」が策定され、いち早く住民主体のまちづくり活動が取り組まれてきました。

アクションプログラムは、ビジョンの策定から10年を経た現状を踏まえ、今一度、どのような取組が喫緊に重点的に行っていくべきか、地域の方々とともに、以下の5つの方針のもとにとりまとめたものです。以降、平成29（2016）年度から今年度までの4年間の計画期間を通じ、住民をはじめとする多様な主体が連携し、順次、取組みを進めてきました。

<アクションプログラムの5つの方針及びテーマ>

方針	テーマ
方針1 若者・子育て世代を始めとした各世代が 住みやすいニュータウンの基盤づくり	1 多様な主体による子育て・医療・福祉の機能の充実と連携促進 2 洛西NT住宅流通促進システムの構築 3 良好な住宅地景観・住環境を守るための地域活動の推進
方針2 生活・福祉など住居魅力を高めるサービスの向上	4 安心して子育てのできる子育て支援サービスの充実 5 子ども達が健やかに育つ環境や学びの機会・魅力づくり 6 子育て中のママ・パパが持つスキルを社会とつなげる仕組みづくり 7 高齢者・障害者に住みやすいまちづくり、生きがいづくり 8 高齢者を始め地域住民がニュータウン内で働ける機会・場づくり
方針3 洛西ニュータウンの魅力充実と交流人口の呼び込み	9 洛西ニュータウンや周辺地域の魅力を活かした交流拠点機能の充実 10 緑豊かな公園の再生と新たな魅力創生による憩い・遊びの空間づくり 11 生物多様性に配慮したまちづくり 12 サブセンターの有効活用
方針4 イメージ戦略も含めた仕掛けづくりと多様なメディアによるニュータウン情報の発信	13 魅力があり住みよいまち、洛西ニュータウンのイメージ戦略 14 ポータルサイトやまちづくり通信などによる情報発信
方針5 洛西ニュータウンの将来を展望した更なる活性化に向けた検討	15 洛西ニュータウンの将来を展望した更なる活性化に向けた検討

その結果、プログラムに掲げた具体的な取組について、ほぼ全部の項目に着手し、成果を挙げてきました。計画期間後もこれらの成果をもとに、住民をはじめとする各主体が引き続き、まちづくりに取り組むことが必要です。また、方針5の「ニュータウンの将来を展望した更なる活性化に向けた検討」は、4年間の計画期間中に完結するものでないことであり、引き続き取り組んでいく必要があります。

今後の当面の取組（素案）

これまでの取組みによる成果を継続するとともに、変化している社会情勢を踏まえて、今後洛西ニュータウンの魅力を一層高め、来て、見て、住んでもらうために、持続可能なまちづくりに取り組んでいくことが必要です。

① アクションプログラムでの取組を踏まえて継続する取組

計画期間中に方針1～4に基づき住民・事業者と協働で進めてきた取組について、計画期間後も、住民や行政をはじめ、それぞれの主体が必要に応じ連携し、引き続き必要な取組を実施します。

次年度以降に取り組むことが想定される取組（例）

■公園関係

- ・洛西竹林公園内子どもの広場整備後の活用（住民・事業者等とも協働による持続的なプレイパークの実施等）
- ・整備された都市公園の環境を生かした更なる魅力化の検討

■住宅関係

- ・現在の住宅・拠点関係ワーキングのメンバーを中心とした、住宅政策上の課題と連動した住環境の維持・中古住宅流通促進等の取組推進

② 新たな社会情勢なども踏まえて、市が中心となって進める取組

方針5に基づく取組については、これまでの成果や、人口減少に歯止めがかかっていないといった課題、さらには小中一貫教育校の創設や市立芸術大学の移転、コロナ禍の影響や社会・経済情勢の変化等も考慮しながら、洛西地域はもとより西京区ひいては市全体の活性化に寄与する視点を持って、主として以下の項目に重点的に取り組んでいきます。

- 若年世帯・子育て世帯のニーズに合った居住環境の検討
- 新たな職住近接を実現する働く場の創出
- 地域の核となるタウンセンター、サブセンターの再生・活性化
- ニュータウン内外のアクセス性を高める交通利便性の更なる向上

R3以降の連携体制（案）

アクションプログラム計画期間後の連携組織

現行のアクションプログラム推進会議を発展的に解消し、各団体における取組について情報共有・報告等を行う「洛西ニュータウン円卓会議（仮称）」の設置（メンバー等については、今後要検討）